

産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 群馬県野菜花き課
都道府県 群馬県
対象地域 群馬県
対象品目 トルコギキョウ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本県のトルコギキョウ生産では、農薬による土壌消毒のほか、フスマ等の有機物を用いた土壌還元消毒が行われているが、土壌病害の防除効果が十分ではないケースも多く見られ、さらに高温期の作業による作業者の身体的負担も大きい。防除効果が不十分な理由の一つとして、農薬やフスマが混和されず効果が得られない下層に細菌等の土壌病原菌が残存し、深根性のトルコギキョウの根が下層に到達するためだと考えられる。

そこで、土壌内へ浸透し下層における防除効果が期待でき、かつ、化学農薬に比べ環境負荷低減につながり、さらに有機物利用に比べて省力化できる「低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒」を産地へ導入し、環境に配慮しつつ生産性の高い生産方式への転換を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫			● ～ ● 土壌消毒	× ～ × 定植		収穫						
技術名				化学農薬による土壌消毒									

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	収穫			● ～ ● 土壌消毒	× ～ × 定植		収穫						
技術名				低濃度エタノールによる土壌還元消毒									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	5	5	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.2	0.7	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.2	0.7	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.2	0.7	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬による土壌消毒 有機物による土壌還元消毒	▶ 低濃度エタノールによる土壌還元消毒	化学農薬の使用回数の削減 土壌消毒作業時間の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬の使用回数（回）	1	▶ 0	クロルピクリン液剤等1→0回
省力	土壌消毒作業時間（時間/10a）	7.6	▶ 6.3	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

本検証結果を踏まえたマニュアルを活かし、対象となるトルコギキョウの生産現場での技術普及及び更なる取組事例の蓄積による知見を活かした指導に取り組み、慣行的に行われている化学農薬による土壌消毒方法から、低濃度エタノールによる土壌還元消毒への転換を推進し、環境へ配慮しつつ生産性の高い生産方式への転換を図る。

関係者の役割

関係者名	群馬県西部農業事務所 及び東部農業事務所	群馬県野菜花き課	生産者	
役割	・マニュアルを活かした技術普及、指導（現地研修会、巡回） ・取組事例データ等の収集とそれを活かした指導	・現地技術普及、指導のフォロー ・取組事例データ等の集約、分析	技術の実証、導入	

その他